

台峯ナショナル・トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

1999年6月

NO. 1

会報発刊にあたって

昨年のトラスト発足以来半年あまり、基金の趣意にご賛同頂き、はやばやとご入会頂きました会員のみなさまに、基金委員会の一同、心からお礼を申しあげます。

北鎌倉周辺の自然は、街道沿いの目に触れる両側の稜線ぎりぎりまで年々開発が進んでまいります。わたしども、この土地に住む者としては何にもしないではいけないという、そういう気持だけでこの活動をはじめました。会員のみなさまをはじめ、浄財をご寄付頂いた方々、鎌倉の自然を大切と思ってくださる各方面の方々の気持を支えに、“ゆっくりと、しっかりと”歩み続けていくつもりでありますので、どうか息長くご支援くださるようお願い申し上げます。

なお委員会の年間事業期間を4月1日～翌年3月31日としましたので、今回の期末会報は1998年11月～1999年3月の短い期間のご報告だけになりました。これからは会員のみなさまとの交流をよりよく生かした会報にしたいと、同封アンケートをはじめ、ご意見、ご感想を随時お寄せくださるようお願い致します。

- 会報内容**
- * 会員へのお知らせ
 - * 1998年度活動報告
 - * 基金会計報告
 - * 1999年度活動計画
 - * “緑のサポーター”の基金支援活動報告
 - * 各担当委員から

台峯ナショナル・トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会

会員へのお知らせ

1、委員会の事業年度について

98年11月に発足した当基金の事業年度を99年3月末で決算、以降毎年4月1日より翌年3月31日までの事業年度とすることを決定しました。

2、会員の年会費の有効期限

有効期限を入会申し込み受付けの月から翌年の前月までの1年間としました。大変遅れましたが、会員証を発行しました。

3、基金委員会の担当委員制の確定

自主的に発足した委員会活動の機動性を高めるため担当制にしました。

委員長 森泉 定男

委員 望月 眞樹 (組織担当) 望月 晶夫 (企画担当)

小田原茂夫 (企画担当) 齋藤 博子 (渉外担当)

小林 京子 (会計担当) 新槇 幸子 (会計担当)

- ★ 委員会の最重要課題として「なだ いなだと台峯をあるく」イベントを毎月第3日曜、9時、山ノ内公会堂集合で年間を通して行っています。北鎌倉に残された里山をぜひ一緒に歩きましょう。

1999年度活動報告

- 1998年2月1日 台峯緑地を対象にしたナショナル・トラス設立に向けた準備会、開始。以降、ほぼ月1回のペースで準備会合を開催。
- 10月15日 17日の基金設立総会に先立ち、鎌倉メディアセンターで共同記者会見。メディア側の要請で、17日に予定している設立総会に先立ち、98年10月15日(木)PM4時~5時 鎌倉市役所メディアセンターで、基金設立・発足の共同記者会見が行われた。★基金側出席者 なた会長 森泉委員長 ほか6委員。
- 10月17日 山ノ内公会堂で基金設立総会開催。なた会長以下発起人17名の一般民の方々とNHK、神奈川新聞など数社の取材者に対して、司会から11時までの1時間を来場者への挨拶・基金の趣旨説明とし、以降は基金委員会としたい旨、了承をもとめ、開会した。★なた会長挨拶 発起人(委員)一人ずつ自己紹介とコメント。11時になったが、予告した委員会に移らず、雨の中自主参加された熱意ある人達に自己紹介と感想・意見を頂く。表現はことなっても、緑の自然を大事にしたいという、共通の願いが感じられる発言が多く、新しい基金発足の気分は伝うえられたように思われる。
- 11月1日 山ノ内公会堂で第一回定例委員会。①みどりのサポーター制度の設立 ②「なだ いなだと台峯をあるく」は毎月第3日曜日に定期的で開催する。③年内に円覚寺前で街頭募金を行う ④99年のしかるべき時期にシンポジウムを開催する。⑤99年1月をめどに機関誌を創刊する、などの方針を決定。
- 11月23日 快晴。鎌倉自主探鳥会のメンバーの協力を得て、第1回「なだ いなだと台峯をあるく」を実施。山ノ内公会堂-台峯-鎌倉中央公園のコースを2時間かけて歩いた。参加者は135名、多数参加のため説明がゆき届かず参加者に失礼があったと反省。
- 12月6日 第2回定例委員会。円覚寺前での初の街頭募金実施。

- 99年1月10日 第3回定例委員会。なだ会長、石黒副会長初出席。
 1月17日 第3回「なだ いなだ と台峯をあるく」。
 同日会員と委員会メンバーとの意見交換を目的にした台峯トラストの
 集いをNPOセンター大船で開催。
 2月7日 第4回定例委員会。
 2月21日 第4回「なだ いなだ と台峯をあるく」
 参加者の希望で台峯を外側から見れる六国見山の二手に別れました。
 2月28日 第2回円覚寺前での街頭募金。
 3月2日 第5回定例委員会。
 3月21日 第5回「なだ いなだ と台峯をあるく」
 4月4日 第3回円覚寺前での街頭募金。桜満開。後第6回定例委員会。
 4月8日 第5回「なだ いなだ と台峯をあるく」
 時折降り出す雨の中を参加者の強い希望で歩きだしました。
 5月1日 市民活動フェスティバル参加。NPOセンター大船。台峯の野鳥の生
 態、鎌倉の緑の航空写真等を展示。
 5月5日 委員が交替で会場につめ、訪れる方に説明、又他の市民活動グループ
 との交流ができました。
 5月9日 第7回定例委員会。
 5月16日 第5回「なだ いなだ と台峯をあるく」。今回もまた小雨。でも人数
 が少ないだけ密度の濃い説明で充実した半日でした。
 5月29日 第3回円覚寺前での街頭募金。

★ 3月31日の期末以降も、最近の動きをお知らせするため、加えました。

円覚寺前の街頭募金の際観光客
 に趣意書を渡す、なだ会長



「なだ いなだ と台峯を歩く」に参加
 した市民と一緒に台峯をあるく、なだ会長



北鎌倉の景観を後世に伝える基金

1998年度会計報告

(自1998年11月1日 ー 至1999年3月31日)

借 方			貸 方		
科 目	金 額	内 訳	科 目	金 額	内 訳
収 入	(3,859,439)		保有資産	(3,382,484)	
会 費	643,000	会員 433名 本人 286名 家族 147名	当座預金	113,770	
法人会費	21,000	7 件	普通預金	760,278	
寄付金	2,903,330	413 件 法人 7件 651,212 個人 406件 2,252,118	定期預金	2,508,436	
助成金	239,580	29件 機関誌及び 活動資金	現 金	0	
街頭募金	52,529	3 回分	管理費	(478,491)	
雑収入	(1,536)		事業活動費	67,731	街頭募金、山歩き イラスト旗代
受取利息	1,536	定期預金利息	川紙印刷費	133,115	印刷、用紙代
合 計	3,860,975		事務消耗品費	88,320	印鑑ゴム印、封筒 領収書、帳簿
			通信費	133,617	郵便、振込料
			事務局経費	28,688	名簿作成ソフト
			会議費	25,000	山ノ内公会堂 使用料 13回
			租税公課	2,020	収入印紙
			合 計	3,860,975	

次年度繰越金 3,382,484円

北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会

委員長



1999年5月14日

上記の会計収査に相違ないことを認めます。

監事

岡本正博 

監事

小島 宏 

1999年度活動計画

1) なた いなだと台峯をあるく会 毎月第3日曜日

- ・午前9時に山之内公会堂に集合し、台峯及び六国見山、周辺の北鎌倉の景観を構成する山並みを歩く。やむを得ない所用以外はなだ会長も毎月参加。
(ガイド役として久保氏(日本野鳥の会会員)他協力サポーターが支援。

2) 地権者との話し合いを深めます。

3) 行政との定期的な話し合い

- ・台峯に関する最新の情報を入手。
- ・台峯に隣接する中央公園第二期計画の進捗状況を把握し、緑地保全の観点から対応を考える。

4) 基金の発足1周年の行事(内容未定) 11月

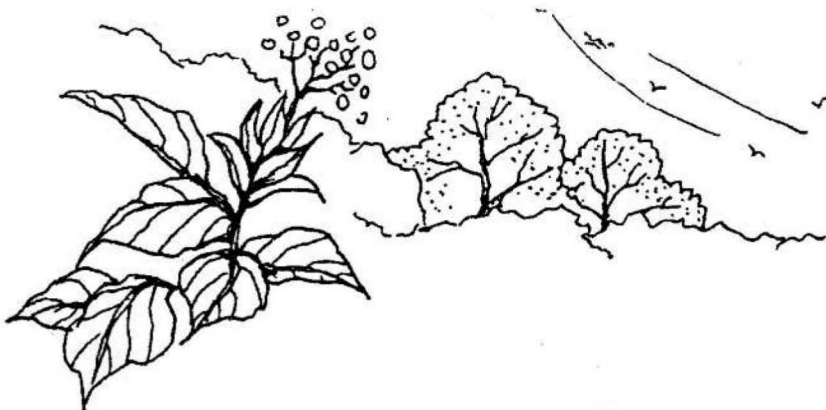
- ・目的は会員の方々との交流、外部に対するPR

5) 街頭広報活動 (年間4回程度とし時期は未定)

- ・北鎌倉駅又は鎌倉駅周辺での街頭募金及び入会募集パンフレット配布。

6) その他

- ・台峯の生態系と里山としてのあり方の調査・研究。
- ・活動資金充実のため、トラスト・グッズ、テレホンカード、絵ハガキ等作成頒布を計画。



みどりのサポーターのご紹介

－肩並べ、同じ視線で、緑を保全－

台峯を里山的に実質保全する目標に向かって、組織の自主性を尊重しながら、私たちとゆるやかなパートナーシップを結んでいただいた「みどりのサポーター」の横顔を紹介いたします。基金設立以来、5団体が名乗りを上げてくださいました。慢性的な人手不足状態で、猫の手も借りたい委員会にとっては、まさに干天の慈雨。チャリティコンサートやガレージセールなどのイベントの実施によって生じた利益の基金への拠出、「なだいなだと台峯をあるく」や街頭募金の際のサポート、趣意書、機関誌の配布、会員の勧誘などの幅広いご協力に、この会報の場を借りて、改めて御礼申し上げます。

〔北鎌倉を愛する音楽家の会〕

みどりのサポーター第一号。長谷川学理事は「北鎌倉は世界有数のサウンド・スケープ（聴覚的風景）を備えている。北鎌倉の音楽関係者、愛好家の力を結集すれば、大きな力になる」と考え、この会を設立されました。今年2月には、山ノ内公会堂で、サロン・コンサート「平安時代の笛の音」を主催、純益を当基金に支援金として拠出くださいました。基金設立趣旨書の配布などを通じて、基金の存在を多くの方々に案内もしていただいております。

事務局 鎌倉市鶴見21-2 ☎0467(47)9584(FAX兼用)

〔鎌倉学塾〕

日本の中世を視点に地域間交流を目指し、源頼朝没後800年の今年を鎌倉を見直し、発信し、交流を広め、深める好機ととらえ、共感ネットワークづくりを推進しています。これまでに首都圏各地で20回を超す鎌倉学フォーラムを開催し、今秋には「鎌倉武士と禅」の講演、体験講座を予定。中川隆代表には、当基金の活動の各方面への紹介に止まらず、情報の提供や基金の資産の増加に寄与する募金箱の設置可能なお店を紹介していただきました。

事務局 鎌倉市鶴見3-5-21 ☎0467(24)9450 FAX(24)9400

〔鎌倉・広町の森を愛する会〕

広町緑地は、当基金のトラストの対象となっている台峯緑地と同様、鎌倉市が最優先に保全を図ろうとしている三大緑地の一つです。主婦が中心の組織で、広町緑地を保全しようと広町のハイキングコースの案内やハイキングコースの整備を図る一方、鎌倉市や神奈川県内の緑ボランティアへ積極的に参加、草の根的に市民運動を実践されています。メンバーの方々が、街頭募金や台峯あるきなどのイベントのお手伝いに、駆け付けてくださっています。

事務局 鎌倉市板橋5-1-7 ☎0467(32)5394(FAX兼用)

〔鎌倉モオツァルト協会〕

鎌倉市民の音楽文化の向上に寄与するため、音楽会などを随時開催しています。古き良き伝統文化に、焦点を当て、それを生かしながらリレーしていくのが大きな特徴です。昨年末、鎌倉中央公民館ホールに二百人の参加者を集めて「鎌倉歌劇 御谷ノ森デ大学ゴッコ」を主

催、収益金の一部を支援金として当基金に拠出していただきました。基金の設立趣意書も配布していただいております。

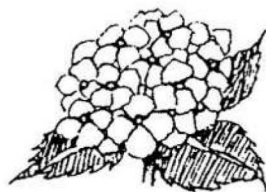
事務局 鎌倉市手広1206 ☎0467(32)4802(FAX兼用)

〔高野グリーングループ〕

毎年、春と秋に「緑のガレージセール」を開催、売上金の一部と寄付金を当基金や動物愛護協会、アークメンバーズクラブ、家なき猫を守る会へ支援金として贈られています。増田美香子代表は「昔から、人々はごく自然に互いに思いやりを示し、手を結び合い、会話を広げ、生活を豊かにしてきました。このガレージセールの活動を通じてこのような脈々とした命の息づきが感じられます」とこれまでの活動を振り返っておられます。

事務局 鎌倉市高野6-1 ☎0467(43)2062 FAX(43)3242

なお、みどりのサポーターではありませんが、いやしの音楽を提唱されている「自然音楽研究所」(青木 由起子所長、鎌倉市小袋谷2-14-34 第1サニービル2F ☎0467-45-1230 FAX 48-6405)が、当基金のために4月と5月の二回にわたり、チャリティコンサートを開催、純益の全額を当基金に支援金として寄せていただきました。



担当委員から

里山にしか生きられない生物

ホームに降りたつ人々を鶯の啼き声が迎える北鎌倉駅。そこから歩いて十分余りの台峯緑地。

県の環境評価書にもA1とランクされる自然が残っているのです。里山にしか生きられない小さな生物たちも生息しています。四季折々の豊かで美しい緑は訪れる人達に限りない安らぎを与えてくれます。何とか子供たちの世代に残してゆきたいと祈る気持ちです。

小林 京子 (会計担当)

後世からの預かり物

台峯の緑地は、所有者の努力で守られてきました。近くに住みその恵みを楽しんできた私達は、壊さず次の世代に渡すために「台峯の緑を守る会」で活動を続けてきましたが、限界を感じ、ナショナルトラストしか無いと思いつつ長い時を費やしました。昨年11月発足し、多くの方からの思いと浄財を戴き、感激しました。改めて責任の重さを感じ、地道にトラスト運動を続けて、期待に応えられる様努めてまいります。

齋藤 博子 (渉外担当)

ゴールは霞んでいるが

現役サラリーマンのだれもが経験したことのないような長期不況のなかで、リストラという名の人員整理が堂々に行われ、残された者はますます忙しく長時間働くこととなり個人が自由に使える時間が狭められることになります。

そのような中でトラスト運動にどのくらい協力出来るか、いつも不安を感じながらついていっています。

北鎌倉の景観を守るトラスト運動は全国で活動中の他のトラスト運動と同様ゴールがほとんど霞んで見えない程です。

しかし、なだ会長が「北鎌倉の風」創刊号の中でドイツ人との会話で紹介された「もっとゆっくり、そしてしっかり」を自からのモットーに一步ずつ許される時間の中で運動に参加しています。

望月 眞樹 (組織担当)

守るべきものさえなくなるか

蛙が鳴き、蛍が舞う。又、夏になれば、カブト、クワガタが近所の山でいくらでも採れました。これはほんの30~40年前の鎌倉のどこにでもあった、普通の自然環境でした。

しかし今、環境破壊が進み、探さないと見つかりません。

残された数少ない自然を、次の世代に確実に引き継ぐ事こそ、我々の責任であると思います。恐ろしい事ですが、このままでは、守るべき対象すらなくなってしまう事が予想されます。

望月 晶夫 (企画担当)

北鎌倉・台峯緑地保全運動に参加して

住民運動が常に問うているもの、問わざるをえないものは、人々の永続的で、健康な生活でしょう。しかし、企業活動のめざすのは当面の利益確保で、百年、二百年先の環境など思考の埒外です。日々、生産され続けているすべての物はゴミとなります。しかし、自然は人間がその場さえ奪わなければ自身の力によって蘇ります。

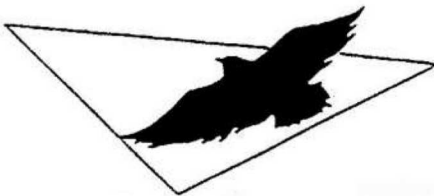
北鎌倉においても、大規模な宅地開発が最後に残された台峯緑地を破壊しようとしています。これを黙認する事は、その場に息づいているものたち、子供たちにとっても許される事ではありません。

小田原 茂夫 (企画担当)

時に流されないで

確か私が小学校四年生位の東京より鎌倉への遠足の時、誰かが「あっ観音様だ」と叫んだ。すると電車が傾く位、皆窓際へ顔を寄せて青い空、辺り一面の緑、その中にくっきりと浮かんだ観音様。その美しかった景色は鮮明に脳の中に浮かんで来ます。あれから四十数年、当然の事ながら電車の中から見る風景は変わりました。だからもうこれ以上、木々、田畑を削ってまでも、今あるもので十分ではないかという思いから、せめて台峯のこのまとまった緑を守りたい。守ることが日本の高度成長を享受して来た我々の世代の努めではないかと考えます。

新模 幸子 (会計担当)



緑と古刹が織り成す安らぎの
街並み保存に力を貸してください

<表紙題字 橋本ひろ>

発行日---1999年6月16日 発行人---森泉定男 発行所---台峯ナショナルトラスト北鎌倉の景観を後世に伝える基金委員会

事務局 〒 247-0063 鎌倉市髙原3-18-1 TEL/FAX0467(46)0432